

甲賀市レッドリスト 2012 繁殖鳥類

◇ 甲賀市の鳥類（繁殖鳥類）（鳥類相および地理分布の特徴, 解明度）

- ・ 甲賀市の鳥類については, 整理された文献はないが, みなくち子どもの森自然館のデータベースでは, 市内で 156 種の鳥類が記録されている (未発表) . また, みなくち子どもの森園内では 113 種の鳥類が確認されている (河瀬ほか, 2010) .
- ・ 鳥類は飛翔能力が高いため, 甲賀市に特有な種類がいるわけではないが, 生きものが豊富な丘陵地帯の水田や溜池にチュウサギなどサギ類, カワセミ等が普遍的に生息し, 鈴鹿山脈の深い溪谷にはクマタカ, アカショウビンなど希少種が, 自然度の高い野洲川にはカワガラス, イカルチドリが見られるなど, 市内に存在する多様な環境に, 多様な鳥類が生息する.

◇ 甲賀市レッドリスト 2012 繁殖鳥類 掲載方針

- ・ 甲賀市レッドリストでは, 市内に分布する鳥類 (通過種を含む) のうち, 繁殖鳥類を評価対象とした. 飛翔能力が高い鳥類の生息状況を判定する場合, 旅鳥 (通過する渡り鳥) や冬鳥 (寒暖や餌の状況等で年変動や移動が頻繁) は, 市域の限定された範囲の生息状況を判断し難いためである.
- ・ “繁殖”鳥類としているが, 必ずしも直接的な繁殖根拠が得られなくても, 繁殖期に一定の個体が定着していることが明らかな場合を含めた. 例えば「◎」と標記されても, 「繁殖期にさえずりが定常的にある」など間接的な繁殖根拠のみで, 営巣や巣立ち雛の確認など直接的な繁殖根拠がない場合もある.
- ・ 2007 年のレッドリスト策定後も, 野鳥クラブのメンバー等を中心にして, 市内でレッドリスト掲載種のモニタリングをしてきた.
- ・ カテゴリー定義: 「絶滅種」は過去に生息したが, 現在は見られない種. 「絶滅危惧種」は繁殖数が 5 ペア以下, 「絶滅危機増大種」は 1 桁後半～30 ペア程度を目安に選定した. 「要注目種」は生息地が限定される傾向にある, 良好な環境指標である, 減少傾向が予想されるが情報不足である, 種について選定した. 「地域種」については, 市内に広く分布し親しみ易いというだけでは掲載しないこととした.
- ・ 外来種については, 本来はブルーリスト (或いはブラックリスト) として別に扱うべきであり, 対象としなかった.
- ・ 偶産的な繁殖記録と考えられる種など, 不確実な情報については, 評価対象外とした.

◇ 甲賀市レッドリスト 2012 繁殖鳥類 掲載種の概要

- ・ 各カテゴリー掲載種数 (甲賀市レッドリスト 2007 と比較) は以下表のとおりであった.

表. 甲賀市レッドリスト 2012 繁殖鳥類 掲載種数

| ＼ | 2012 種数 | 2007 種数 | 増 減 | 備 考 |
|---------|---------|---------|-----|-----------|
| 絶滅種 | 0 | 0 | 0 | |
| 絶滅危惧種 | 8 | 9 | -1 | |
| 絶滅危機増大種 | 17 | 9 | +8 | |
| 要注目種 | 22 | 21 | +1 | |
| 地域種 | 1 | 5 | -4 | 地域種の定義を変更 |
| (合計種数) | 48 | 44 | +4 | |

- ・ 主な掲載種として、絶滅危惧種ではイヌワシ、タマシギ、ブッポウソウ、ヤマセミ、カッコウ、絶滅危機増大種ではクマタカ、サシバ、アオバズク、ヨタカ、サンショウクイ、カワガラス、要注目種ではヒクイナ、オシドリ、チュウサギ、コサメビタキ、サンコウチョウ、地域種はカワセミを指定した。

◇ 甲賀市レッドリスト 2007 繁殖鳥類からの変更とその理由

- ・ 絶滅危惧種 8 種（前回 9 種）では、前回 9 種のうち 5 種が絶滅危惧種に留まり、4 種が絶滅危機増大種へ移った。ヤマセミが絶滅危機増大種からランクを上げ、カッコウ、ジュウイチの 2 種が要注目種から入った。
- ・ 絶滅危機増大種 17 種（前回 9 種）では、前回 9 種のうち 7 種が留まり、1 種が絶滅危惧種へ行き、1 種が要注目種となった。新たに絶滅危機増大種となった 10 種のうち、クマタカ、アオバズク、アカショウビン、サンショウクイの 4 種は絶滅危惧種から移動した。前回の評価時より調査が進行し、繁殖個体数が絶滅危惧種よりは多いと判断されたためである。その他の 6 種は、調査進行によって絶滅危機の度合いが高いと判断され、要注目種からランクを上げた種である。
- ・ 要注目種 22 種（前回 21 種）では、前回 21 種のうち 12 種が同じ要注目種に留まり、2 種が絶滅危惧種へ上がり、6 種が絶滅危機増大種へ上がり、1 種がリスト外となった。新たに要注目種となった 10 種のうち、オシドリ 1 種は絶滅危機増大種から要注目種にランクを下げたもので、地域種からチュウサギ、イカルチドリ、ホトトギス、コシアカツバメの 4 種が移り、その他はヒクイナ、ゴイサギなど新たにリストに掲載された。前回の要注目種のうち半数近くが、絶滅危惧種や絶滅危機増大種に移動したことは、調査進行により判明した部分が大きいものの、憂慮すべき状況である。
- ・ 地域種 1 種（前回 5 種）では、前回 5 種のうち 4 種が要注目種へ移った。地域種の定義について限定したこともあるが、チュウサギなど里の水田に普通だった種類が減少傾向にあると判断された面がある。
- ・ 今回のレッドリスト掲載種 48 種のうち、28 種類が山地の森林や社寺林（環境 5, 8 を含む）に生息する種であった。鳥類は、水辺を餌場とする種でも営巣には樹木を利用する種が多いなど、全般的に森林に依存する傾向が現れたと考えられる。大木の樹洞や裂け目の穴などが減少して（穴を掘りやすい古木や大木が減少して）、フクロウ、オオコノ

ハズク, アオバズク, ブッポウソウ, アカショウビン, オオアカゲラなど繁殖が困難な種がいると指摘できる。また, 繁殖に広い森林を必要とするクマタカ, ハチクマなど猛禽類や, 山地の広葉樹林を必要とするトラツグミ, アオバト, 溪谷と溪流の両方を必要とするミゾゴイ, ヤマセミなどの種らが含まれる。一方, 池沼や湿地, 河川に生息する種(環境3, 4, 6, 7を含む種)は20種で, 明るい樹林や草原に生息する種類(環境1もしくは2を含む種)は11種であった。

◇ 今後の対策・留意点

- ・ 絶滅危惧種の繁殖鳥類は, 市内から絶滅してしまう可能性が少なくない。注意深く見守り, 人為的な環境変化を起こさないように配慮が必要である。
- ・ 要注目種については, 絶滅危機増大種ほどではない希少種, 環境指標種, 情報不足の種の3つを分けて考える必要がある。次回の改定時には, 「希少種」, 「環境指標種」, 「情報不足」など新たなカテゴリーを設ける対応が必要となる。ホトトギス, オオヨシキリ, ヤブサメ, キビタキ, オオルリは市内各地で繁殖しており, 要注目種から外す意見もあった。しかし, 各種の環境調査報告書において, 繁殖鳥類の生息環境を評価する場合, 環境指標種の意味からこれらの種をレッドリストに掲載されることが必要と考えた。
- ・ オシドリのように, 5, 6月に確認されるなど, 繁殖の可能性が考えられるが, 確証が得られずに要注目種としたものがある。繁殖が確認されれば, より高いカテゴリーに移ることになる。
- ・ カッコウは毎年繁殖期に, 恒常的にさえずりが聞かれる市内地域があり, 繁殖の可能性がある。確実な繁殖の確認と託卵相手の鳥の特定が必要である。
- ・ 夜行性のため確認の機会が少ないヒクイナ, タマシギ, ヨタカなど, 調査不足の面があるとも考えられ, より一層意識して調査する必要がある。
- ・ より精度の高いレッドリスト策定のため, 鳥類の地道な調査を継続してゆきたい。

【参考文献】

河瀬直幹・小西省吾・横山明子・西村淳子・新保建志(2010) みなくち子どもの森の鳥類。みなくち子どもの森自然館(編), みなくち子どもの森年報告第5号(平成17~20年度), 51-56。

甲賀市みなくち子どもの森自然館(2007) 甲賀市レッドデータブック-守ろう!!甲賀の自然と生き物。80pp. 甲賀市, 甲賀。

滋賀県生きもの総合調査委員会(2011) 滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック2010。584pp. 滋賀県自然環境保全課, 大津。

【策定メンバー 氏名（所属）】（敬称略）

青木 保彦（甲賀市立小学校教諭, 日本野鳥の会滋賀）

笠井 誠吾（滋賀県野鳥の会）

井野 勝行（甲賀市立小学校教諭, 滋賀県野鳥の会）